

すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報

第251号
2014年3月



一般社団法人
大学女性協会



国内奨学金贈呈式 2014年1月11日(土) 京王プラザホテル4F「扇の間」にて

もくじ

〈2014年度全国総会・第3回定時会員総会ご案内〉

会長挨拶・総会関連行事のご案内……………	2	事業報告……………	9
全国総会のご案内……………	3	静岡支部公開セミナー・自然科学講演会・人材育成委員会	
国内奨学金贈呈式……………	4	支部だより 北から～南から 京都・福岡支部…	10
研究概要と将来の抱負……………	5～7	2014年新春のつどい、コンサート報告…	11
高野フミ IFUW 元会長を偲んで……………	8	守田科学研究奨励賞贈呈式・新しいHP・理事会から	
		ピアノコンサート・観劇のお知らせ……………	12

全国総会・定時会員総会ご案内

2014年5月17日(土)～5月18日(日)

会長挨拶

阿部 幸子



新春のつどいで挨拶する阿部会長

再び春を迎え、この一年を振り返りながら会員の皆様のご支援を頂きつつ諸事業が恙なく行われてきたことに感謝し、今年も本部・支部がともに充実した、実りのある活動の

年となりますようにと願っております。

新法人への移行に伴い、昨年から新しい冊子体の会報に模様替えし、広報担当理事、広報委員会のご努力により、新しい会報も定着してきました。昨年は、この会報と連動して広報活動を担っているHPもリニューアルすることを計画し、このほど新HPが動き出しました。本誌12ページに記載されているように、会報や入会用リーフレットと共通のデザインを基調にし、外部業者に委託して製作しております。会員のページも設けましたので、皆様にご意見を頂きながら改善していきたいと願っています。これまで長い間、HPの管理・運営を担当され、広報活動にご尽力されてこられた情報委員会の皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年の8月には、IFUW 総会がイスタンブールで開催されました。この総会で決議された行動計画を受けて、私たち JAUW としては何を協働し、IFUW とどのように連携していくかを真剣に考えていかなければなりません。嬉しいことに、3月8日の国際女性デーに向けて、3月1日には公開講演会「女性と子どもの人権」が開催され、岡山支部でも他団体と一緒に行事を計画するなど、IFUW との連携が目に見えるような動きが見られます。こうした活動が、今後に繋がっていくものと確信しています。

10月には2013年度の全国セミナーを岡山で開催いたしました。このセミナーでは、二つの本部委員会が2年あるいは3年にわたる支部との協働調査の結果を報告されましたが、とりわけ地方議会の女性議員の現状と問題についての報告を伺いながら、わが国では様々な分野で女性のリーダーが育っていないことを実感するとともに、女性の政治参画を進めるうえでも、リーダーシップ養成と女性リーダーを生み出せるネットワークづくりが急務であることに思い至りました。理事会では、新法人への移行期間を含めて新組織としての

4年が経過する今、本部組織の見直しを行っています。とくに、事業1の女性の地位向上のための啓発・提言事業、及び事業4の国際ネットワーク事業を明確化するために、事業担当区分及び委員会組織の改編を行っていますが、その中で、新たに事業1に女性リーダー育成講座を担当する部門を設けました。私どもにとってもリーダーシップの養成と、次々とリーダーを生み出せる組織作りが必要ではないでしょうか。是非とも皆様と共に考えていきたいと思っております。

5月18日に開催される第3回定時会員総会をもって私どもは任期満了になり、新しい役員の皆様に会務を引き継ぐこととなります。多くの皆様が会員総会にご出席くださり、有意義な意見交換ができますことを期待しております。

総会関連行事のご案内

運営委員長 牧島 悠美子

2014年度全国総会・第3回定時会員総会が東京の都市センターホテルで開催されます。それに伴い総会前後に支部長会、懇親会、研修会などを開催予定です。

前日の支部長会は、改めて本部よりご案内をいたします。

会員の親睦のために懇親会を計画しておりますが、今回は特別ゲストではなく、各支部の皆様の歌やお話などを披露していただければ嬉しく、積極的なご参加を歓迎いたします。

総会午後には予定している講演では、毎年3月にNYで開催される国連婦人の地位委員会(CSW)に参加された会員から、とくにNGOの動きを中心としたお話を伺えることでしょう。

総会後の研修として、新しくなりました歌舞伎座での歌舞伎鑑賞を計画いたしました。折角ですので最上のお席を数量限定で用意いたしました。食堂での昼食となります。

更に東京らしい場所の訪問ということで、皇居の御苑訪問も企画しました。吹上御所の入り口あたりを見せていただきます。東京駅あたりで昼食をいただき、出発予定です。

土曜日の昼間には文楽鑑賞の用意もいたしましたので本物をぜひ楽しんでいただければと思います。

従来、支部でまとめたお申し込みをお願いしておりましたが、今回からお申し込みは各自FAXで本部事務局までお願いいたします。支部長さんには申し込み会員を、途中経過も含め、事務局からご報告させていただきます。

また宿泊に関しましては、すでに支部長さんからお知らせがあったかと思いますが、JAUWとしてご案内が叶いませんので各自で予約をお願いいたします。

2014年度全国総会・第3回定時会員総会日程

2014年度全国総会・第3回定時会員総会ご案内

2014年度全国総会・第3回定時会員総会を下記の日程で開催いたします。

皆様お誘い合わせのうえ、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

1. 総会日程（会場：都市センターホテル）

5月17日(土)

支部長会 14:00～17:00 6F 601号室

懇親会 18:00～20:00 コスモスホール

5月18日(日)

全国総会 9:30～16:00 5F オリオン

午前の部 第3回定時会員総会

午後の部 講演会「CSW/NGOに参加して」

田中正子、城倉純子、石塚浩美

報告・懇談

2. 参加費

懇親会参加費：8,000円

総会費：3,000円 総会昼食代：3,000円

3. 宿泊

宿泊ご希望の方は、JAUWとしてはご案内いたしませんので、各自で予約をお願いいたします。

4. 申込方法

①同封の申込書に必要事項を記入の上、**3月31日**までに、各自が本部事務所までファックスでお申し込みください。

支部長には後ほど支部ごとに集計したものをお送りします。

文楽ご希望の方は3月20日までに申し込みください。

②費用（総会費・昼食代・懇親会費用・研修会費）は、**4月8日**までに、必ず同封の郵便振替用紙で個人別にお振込みください。通信欄に必ず、参加項目、支部名をご記入ください。

振込先 口座番号：00110-7-323298
口座名称：一般社団法人大学女性協会

③総会・昼食・懇親会のキャンセルは、**4月30日**までとします。但し、総会費3,000円は日時に関係なく返却できませんのでご了承ください。

※ご不明の点がございましたら下記にお問い合わせください。

JAUW 本部事務所

TEL：03-3358-2882 FAX：03-3358-2889

実行委員長 森川淳子

研修のご案内（見どころ案内に替えて）

★5月19日(月)

1. 新歌舞伎座で歌舞伎鑑賞一等席昼食付き 20,200円
先着40名 11:00～16:00頃

2. 皇居見学とランチ 4,000円
先着30名 11:00～15:30
(やむを得ず見学先が変更になることがあります)

★5月17日(土) 文楽鑑賞：国立劇場小劇場 6,500円
先着15名 11:00～15:00頃

・歌舞伎のチケットは総会時にお渡しします。

文楽のチケットは、入金確認後事前に郵送いたします。

・歌舞伎・文楽のキャンセルは原則受け付けませんが、ご相談ください。

都市センターホテルへのアクセス



最寄駅 東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線（永田町駅）徒歩4分

JR 中央線四ツ谷駅からタクシー

会員の皆様へお願い

4月20日頃「第3回定時会員総会開催通知」を「議決権行使書」と同封で正会員宛に発送いたします。開催通知には予算案及び決算報告、各議案が同封されますのでご覧ください。定時会員総会は重要な総会ですので、正会員の皆さまには万障お繰り合わせのうえ、ご出席をお願いいたします。欠席の場合は「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上5月12日(月)までに必着でご返送ください。

国内奨学金贈呈式

2014年1月11日（土）京王プラザホテル4F「扇の間」にて

選考にあたって

第66回 一般奨学生

第23回 安井医学奨学生

国内奨学委員長

岡部 佳世

6月9日のWeb募集開始を皮切りに国内奨学委員会の忙しい作業が始まりました。今年度の応募者数は70名、応募大学数は62大学でした。各支部の一次選考を通過した一般奨学生33名、安井医学奨学生13名の応募者が本選考にありました。選考委員14名とアドバイザー3名による厳正な審査の結果、ホームズ奨学生1名、一般奨学生5名、安井医学奨学生1名の候補者が選考され、2013年11月2日の理事会において正式に奨学生として承認されました。

この大学女性協会国内奨学金は、1947年設立の奨学金制度を母体としています。2003年度からはその目標である女性リーダーの育成を推進するために、一般奨学生も募集対象が大学院生に絞られました。近年は研究内容とともに関連した奉仕・体験活動などの社会的な活動にも重点がおかれ、大学女性協会ならではの選考が行われています。

今年度の奨学生の研究について、一言ずつ紹介します。

戦後日本の女子教育を支援された故ルル・ホームズ氏を記念したホームズ奨学生は、病理学的立場からチェルノブイリ原発事故データと福島原発事故後の健康被害を比較研究し、世界規模の医療支援活動を展開中の呉壮香さん。その人道的医療支援活動にも強い期待が寄せられました。

一般奨学生は、次の方々が高い評価を受けて選考されました。看護職がリーダーシップを発揮できる新しい入退院システムの構築を目指す阿部真美さん。地域と経営を結び付けて適切な時期に適切な医療サービスを患者に提供するための看護師を巻き込んだ研究です。両生類の目の組織再生の研究を一貫して10年以上続けてこられた上田陽子さん。網膜再生の仕方の異なる2種類のカエルを比較して、色素上皮細胞の網膜への分化転換の解明を目指しています。従来のロシア中心的な東スラブ地域研究とは異なり、ベラルーシ語の資料を活用してベラルーシ語研究を展開中の清沢紫織さん。語学力を駆使して消滅の危機にある言語の復興について考察する研究です。日本と中国が古くから文化的な交流を行ってきた事実を大切にしながら「徒草」と「漢籍」の関係を研究中の黄昱さん。漢籍書誌の調査はもとより、文化の深みを探る黄さんの研究は優れた成果を紡ぎ出しています。ソリトン方程式と呼ばれる一連の微分方程式を研究している執行洋子さん。執行さんはすでにこ



挨拶をする奨学生



お祖父さま・お祖母さまと

のソリトン方程式について簡明な証明を明らかにされており、国際的にも期待の文字通りの数学ガールです。

安井医学奨学生は、札幌支部推薦の夏堀晃世さん。動物モデルを用いて、睡眠覚醒リズム中枢の解明を探る研究です。発光レポーターを使ったアプローチも新しく、不眠症・睡眠障害病態解明につながる成果が期待されます。精神科医時代に抱いた問題意識を見事な研究に昇華されました。

今年度もこのように素晴らしい女性リーダーの卵を選考できましたことは、国内奨学委員一同の喜びです。

第42回社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長

縄田 眞紀子

2013年6月、国内奨学委員会とともに社会福祉奨学生候補者の推薦を各支部長及び大学学長宛にお願いし、同時にWeb募集を開始しました。応募者は、大学院生1名、学部生5名でした。10月12日選考委員会を開催、厳正に審査を行い大学院生1名、学部生2名を選考、11月の理事会において次の3名の方々が承認され決定しました。

小林洋子さんは、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程2年に在籍。聴覚障害を障害の部分だけを理解するのではなく、社会全体で支えるシステムの構築と社会への理解啓発のため、「国際生活機能分類」の概念に基づき調査を行いニーズの把握検証に取り組まれています。

駒崎早李さんは、東洋大学文学部教育学科3年に在籍。発展途上国の聴覚障害児教育の発展のための支援に貢献したいと幅広い視点から学ばれています。

山本綾乃さんは、群馬大学教育学部教育人間科学系4年に在籍。多くの聴覚障害児の学ぶ権利の保障と、「分かる」楽しさをともに感じていくことのできる聾学校教員を目指し、高い専門性を身につけるため挑戦されています。

奨学生の方々は、重い障害を乗り越え其々の分野で研鑽を積み目標に向かって進まれています。人々の心のバリアを取り除く役割を必ずや果たしてくださることでしょう。

研究概要と将来の抱負

ホームズ奨学生

甲状腺腫瘍の細胞診の意義と組織学的相違に関わる遺伝子・タンパク質発現の検討

一チェルノブイリ原発事故および福島原発事故後の健康被害にむけた対策一

日本医科大学大学院 医学研究科 病理系統御機構病理学
博士課程3年 **呉 壮香**

1986年4月に発生したチェルノブイリ原発事故では4年後より小児甲状腺癌が増え、事故前と比較して72.6倍に増加した。その後、10年後からは成人の甲状腺癌の顕著な増加を見て、継続的な問題となっている。本邦における2011年3月の福島原発事故後の健康被害のうち甲状腺疾患の増加については、前例がないため予期できないのが現在の事実であり、調査と同時に対策も実行されている。

甲状腺腫瘍には、濾胞性腫瘍と乳頭癌、低分化癌、未分化癌などの腫瘍が含まれている。日常臨床では超音波検査や穿刺吸引細胞診の所見等から診断を行っていくが、良悪性や組織型の確定は容易ではない。本研究では、組織で最終診断が確定した腫瘍の細胞診を振り返り、偽陽性、偽陰性の判定の要因や再現性について検討する。また、各甲状腺腫瘍のパラフィン包埋組織切片から蛋白質を抽出して質量分析および解析を行い、発癌機構解明、鑑別や早期発見のためのバイオマーカーの探索を行うことを目標とする。

この研究を通して、甲状腺穿刺吸引細胞診の診断精度の向上を目指す。また、蛋白解析結果から甲状腺癌発生メカニズムを検討し、早期発見と早期治療の開発へとつなげたい。いかなる研究段階においても被災地への人道的医療支援は継続し、臨床と連携をとった上で病理学的立場から、国内外での高まる需要に応えられる環境整備に尽力していきたいと考える。

一般奨学生

看護職が主導する急性期病院の入退院マネジメントシステム構築—生産管理の視点を活用して—

慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 経営管理学科
修士課程2年 **阿部 真美**

私は看護師・保健師として日本とシンガポールでの現場経験をもつ。そこで医療にマネジメントの視点が不足していることを強く実感し、MBA課程に進学した。

現在修士論文では、医療と経営管理学の視点を融合した研究を進めている。研究の背景には、高齢化が更に進む中、急性期病床の効率利用のため円滑な地域連携が必要であるという課題がある。しかし実際の連携は時期が遅く、情報提供も一方通行であり、患者への適切な時期での施療が困難だ。本研究では急性期病院と連携機関間の入退院調整の仕組み作りや実際のプロセスに生産管理の手法を当てはめ、円滑な入退院を妨げる連携の制約条件を明らかにする。そしてそれを解消する仕組み作りを提言する。この仕組み作りでは、療養生活支援の視点を持つ看護職がハブ機能と

なることが重要であることがわかっている。

なお、生産管理の視点から入退院システム構築プロセスを捉えた前例や看護職のリーダーシップと入退院マネジメントプロセス構築を結びつけた前例がないことから、当研究が今後の入退院マネジメント研究等の枠組みになると考える。先日、当研究は医療科学研究所助成研究に選定された事もあり、社会に結果を還元できるよう努力する所存である。

将来は、新事業提案や研究等を通じて、医療現場経験に経営管理学の知見を組み合わせた新価値を社会に提供したい。これにより、ヘルスケア産業の発展には勿論、ヘルスケア分野で日本の抱える問題の解決に貢献していきたい。

両生類網膜再生過程における網膜幹細胞特異的遺伝子の発現制御機構

奈良女子大学大学院 人間文化研究科 共生自然科学
後期博士課程3年 **上田 陽子**

私は両生類のモデル動物であるツメガエルを用いて眼の網膜再生の研究を行っています。網膜は、光の受容と光情報を脳へ伝達するという重要な機能を担う神経組織です。人を含め哺乳類では、網膜が受けた障害を回復することができず、きわめて深刻な視覚障害を招きます。脊椎動物の成体において、網膜を完全に除去しても再生できるのは両生類だけであり、その再生メカニズムを明らかにすることには大きな生物学的な意味があります。

アフリカツメガエルでは、主に網膜の外側を覆っている色素上皮細胞から新たな網膜が再生されます。このように、色素上皮細胞として機能していた細胞が、網膜へと運命を変える現象は「分化転換」と呼ばれます。一方で、近縁種のネッタイツメガエルでは眼の中の未分化な網膜幹細胞から新たな網膜を再生し、色素上皮細胞は再生網膜にほとんど寄与していないことがわかってきました。このことから私は、色素上皮細胞から網膜への分化転換能が異なるこれら近縁2種のツメガエルを比較することで、色素上皮細胞がどのように網膜へと分化転換するのかを明らかにしたいと考えています。そのために、網膜再生過程における、色素上皮細胞での網膜幹細胞特異的遺伝子の発現を制御している要因を明らかにしたいと考えています。

将来は、これまで私が感じてきた基礎研究のわくわく感とそれを伝え共有する喜びを次の世代の人たちにも伝えていける研究者になりたいです。

危機言語としてのベラルーシ語

—ロシア語優位社会におけるその危機の実態と復興の可能性—

筑波大学大学院 人文社会科学研究科 国際地域研究
博士前期課程2年 **清沢 紫織**

旧ソ連の構成国の1つ、ベラルーシ共和国では、帝政ロシア・ソ連による支配の中で浸透したロシア語の広範な使用を背景に、基幹民族語であるベラルーシ語が、憲法で国家語という高い地位を与えられているにも拘わらず、ユネスコによって消滅の危機にある言語（危機言語）として認

定されています。私はこの点に着目し、ロシア語優位社会であるベラルーシ共和国の言語状況及び言語政策の実態を分析し、同国においてベラルーシ語が具体的にどのような面で危機に晒されているのかを研究しています。

ベラルーシは、地政学的な条件からヨーロッパ的な要素とロシア的な要素が複雑に混在した独自の歴史と文化を育んできた地域です。しかし日本においては、伝統的にベラルーシはロシアの周辺地域として扱われるに留まって来ました。そうした中で私は従来のロシア中心的な視点ではなくベラルーシ自体を研究対象の中心にし、これまで参照される事の少なかったベラルーシ語による資料を現地で収集し、積極的に活用しながら研究を進めています。

将来は、博士課程に進学して自身の専門性をより深めると共に、現在の研究テーマを基礎に、旧ソ連地域全体の言語政策の比較研究や日本の危機言語問題であるアイヌ語や琉球諸語の事例との対照研究にも取り組みたいと考えています。また自身の研究活動のみならず、ゆくゆくは自らの専門性や語学力、国内外での研究活動で得た経験を活かし、大学教育にも貢献していきたいと考えています。

『徒然草』と漢籍受容・漢訳について

—文学におけるオリジナリティの創出—

総合研究大学院大学 文化科学研究科 日本文学研究
博士後期課程2年 **黄 昱**

博士論文は、『徒然草』と漢籍の関係をテーマに、二部に分けて考える。一つは、『徒然草』の漢籍受容の経緯と意図などを分析し、その受容の方法論を考察する。もう一つは、近世期に『徒然草』を漢訳した書物の異種『蒙求』について考察する。『徒然草』の漢籍受容及びそれについて近世期の文人たちの認識を探り、『徒然草』が受容したものと、『徒然草』が影響を与えたものとの二つの面から、『徒然草』と漢籍の関係を位置づけたい。

本研究の第一部は『白氏文集』『莊子』など『徒然草』に受容された漢籍を例に、原典だけでなく、日本の漢詩文、物語、和歌など『徒然草』に先行する古典作品に受容された漢籍の表現に焦点を当て、『徒然草』の漢籍受容の中間的媒体を探る。また、近世期に『徒然草』を漢訳した異種『蒙求』という作品群を取りあげ、その漢訳の特徴を分析し、同時期のほかの漢文作品及び『崑玉集』、『吉野拾遺』から始まる近世期の兼好伝記と関わりながら、『徒然草』の漢訳という問題を取りあげる。このような作業を通して、古典作品の表現が中国から日本へ伝来した後の変容と、中世から近世へ伝授する時の変容が見えてくると考える。

将来は母国に戻り、大学の教師として研究を続けたいと思う。日本の古典文学という美しい世界と、古い時代に、中国と日本が行なってきた文化的交流の様態を学生に知ってもらい、こういう交流こそ、両国の平和と進歩に繋がるものだと中国の若者に伝えたい。

可積分系における研究

津田塾大学大学院 理学研究科 数学 博士課程1年
執行 洋子

可積分系と呼ばれる分野の研究をしている。その中でも

ソリトン方程式と呼ばれる一連の微分方程式の研究をしている。ソリトンとは、粒子的性質を持つ孤立波のことであり、ソリトンを解に持つ非線形波動方程式をソリトン方程式と呼ぶ。このソリトン方程式の特徴として、ソリトン解等の厳密解が求まる、さらに解を解に変換する変換を持つ等の隠れた高い対称性を持つことが知られている。私は現在ソリトン方程式の代表的な方程式系であるKP階層と呼ばれる微分方程式の無限系列を研究している。

KP階層そのものがそれから生み出される加法定理と同値である、すなわち、微分方程式の無限系列が一つのある種の差分方程式と同値であるという大変興味深い事実が知られている。私はこの事実に着目し、知られていた証明とは異なる、より簡潔な別証明方法を与えた。この方法が他の方程式系にも応用できるであろうと考えている。

現在、博士課程に入り、様々な研究集会や学会に参加させていただく機会が増え、様々な人、研究に出会うことで刺激的な日々を送らせて頂いている。数学の世界はまだまだ女性の少ない世界ではあるが、今後は一女性研究者として活躍できるよう、さらに研究に励んでいきたいと思っている。

安井医学奨学生

動物モデルを用いた睡眠覚醒リズム障害の脳内メカニズムの解明

北海道大学大学院 医学研究科 医学 博士課程4年

夏堀 晃世

哺乳類の概日リズム機構は、中枢時計である脳の視交叉上核が全身の組織の末梢時計のリズムを制御し、統一された睡眠覚醒リズムやホルモリズムが発現する。一方ヒトは、視交叉上核の他に第2の振動体が脳内に存在し、睡眠覚醒リズムを直接支配すると考えられている。一部の睡眠覚醒リズム障害は、2つの脳内振動体の乖離により生じると想定されている。本研究は睡眠覚醒リズム障害の病態解明を目指し、動物モデル(覚醒剤メタンフェタミン投与ラット)を用い、この睡眠覚醒リズム中枢の探索を行った。

約24時間周期で全身の組織に発現する時計遺伝子Per2の発光レポータートランスジェニックラットへメタンフェタミンを投与し、ラットの行動リズムが夜行性からヒト型へと変化した時に脳組織を採取し、Per2発現リズム(発光リズム)をルミノメーターで測定した。ヒト型睡眠覚醒リズム出現時、特異的なリズム変化を生じた脳部位を解析し、睡眠覚醒リズムを支配する脳内振動体は、複数のドーパミン神経組織からなる複合振動機構であることを示した。

私は精神科医師としての臨床経験を経て、睡眠疾患の患者数の多さと病態解明の遅れに対する強い問題意識から基礎医学研究を志した。大学院卒業後も睡眠覚醒に関する基礎研究を引き続き行い、医学・医療の発展に少しでも貢献できるよう一層努力したい。また今後、女性研究者として生きるうえで、身近な人達の協力に感謝しつつ、第一線の研究と家庭の両立というロールモデルを目指していきたい。

社会福祉奨学生

障害者と医療・保健・福祉サービスに関する研究

一聴覚障害者の実態調査およびニーズの把握検証一

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学
博士課程2年

小林 洋子

従来、障害者は医学モデルを背景にマイナス的な視点でのみ捉えられてきたが、近年は社会モデルも融合する形でプラス的な視点も含んだ包括的検証の重要性が唱えられるようになってきている。我が国においては障害者の集計分析はされているものの、障害者個々人が持つ特性、社会経済的・文化的背景を含む諸要素と医療・保健・福祉サービスへのアクセスとの関連についてみた研究は不十分な点が多く、結果的に政策立案や社会一般の障害者観、そしてシステム構築にも強く影響していることが考えられている。聴覚障害者のQOL向上実現に向けて、個々人それぞれのニーズに応じた支援体制の充実を図るためにも、障害者が持つ多様な特性や心身の状態など実態を明らかにし、我が国における障害者施策の適正な在り方を模索することは非常に重要であると考えられる。具体的には聴覚障害者個人または集団が社会の中でどのような問題に直面しているのか、どのように医療・保健・福祉サービスを受けているのか、また聴覚障害者の精神的健康状態をはじめ、健康向上に影響を及ぼすものは何かを見極め、統計的手法を用いて聴覚障害者の個別状況や実態を把握した上で潜在的なニーズを明らかにすることが本研究の目的である。聴覚障害当事者の視点を有する担い手として、研究成果を社会に広く発信することにより、障害者施策の更なる発展において助力となれるよう、今後も研究活動と社会貢献活動を続けていきたいと考えている。

途上国の聴覚障害児教育の支援を目指して

東洋大学 文学部 教育学科 人間発達3年

駒崎 早李

私の専攻は教育学であり、日本や海外の教育史を学びながら、日本や海外の例から成人教育、社会教育について視野を広げて考察している。他に、生徒や保護者の心理について学び、実際に模擬授業を行い、教育の本質、教師の存在意義について考えを深めている。また、障害について総合的に学び、特別支援教育について考えている。

将来は発展途上国の聴覚障害児教育の発展のための支援に貢献したいと考えている。そのアプローチ方法や、どの国を支援していきたいか等については現在模索中だが、いずれはアジア地域内の発展途上国の支援を行えればと考えている。そのためには教育界に関わりながら、様々な発展途上国の現場を直に見ていくこと、現在専攻していない国際開発学、国際教育学などを聴覚障害児教育学と並行して学ぶ必要がある。それらの知識と経験を生かし、発展途上国が抱える課題、必要な支援などを考察していきたい。

そのため、大学卒業後は日本国内の大学院に通いながら留学の経験を積んでいくことを目指している。進学するために、勉学に励み単位を確実に修得すること、教員免許を取得すること、教育に関する専門知識を身に付けていくことはもちろん、まずは英語の勉強をしっかりとやりたいと考えている。他に、教育に関するボランティアをやったり、海外に行ったりなど大学生における豊かな時間を活かして経験を積んでいきたいと考えている。今から少しずつ、周りに助けて頂きながら将来に向け努力に励んでいきたい。

私の目指す聾教育

群馬大学 教育学部 教育人間科学系 障害児教育4年

山本 綾乃

「聴覚障害者である私は、聴覚障害について深く学び、周囲へ発信していく役割がある」地元の小学校でインテグレーションの経験をした後、中学・高校の6年間聾学校へ通い、大学では様々な障害種について学んでいる。附属小学校や聾学校など、13週間以上にわたる教育実習も経験し、子どもたちとともに伝え合う喜びや分かる楽しさを味わってきた。そして情報保障（主に手話通訳）に対して、自分のニーズを伝える力を身に付けた。さらに、様々な障害児とかかわるサークルやボランティア活動に積極的に参加し、より多くの子どもや親御さんと交流を深めている。

将来は、ろう学校教員を目指している。しかし、ろう学校現場でさえ、聴覚障害教員が未だ少数の立場であるため、健聴教員と対等に働くことが困難である。また、聴覚障害教員と健聴教員とで、聾教育の視点や価値観について多少の差異が生まれてしまう。さらに、聴覚障害教員の中でも、育ってきた環境が異なるため、手話や表情が豊かな聾教員がいれば、流暢な声で話す難聴教員もいる。聾者のアイデンティティについて考え、目の前の聴覚障害児に良い影響を与えるために必要な資質を身に付けたい。

その一つが、研究テーマでもある「幼児期における聴覚障害児の母子コミュニケーションにみる対人距離」であると考えられる。聴覚障害児の約9割は一般の両親のもとに誕生する。そのため両親の聴覚障害の有無による違い、つまり聴者母親+聴覚障害児と聾者母親+聴覚障害児のコミュニケーション分析を通して、母親の対人距離の違いを明らかにしていきたい。

私の理想とする聾教育とは、家族が早期に我が子の障害受容をし、幼児期に円滑な親子関係が築かれ、豊かな手話環境のある聾学校で聾文化を身に付け、成人聾者として聴者と共に歩み、社会へ貢献できることである。そのために、まずは自分が聾者として、周囲へ様々なニーズを伝えていく力を磨いていきたい。将来は、全ての教員と連携し合い、多くの聴覚障害児の学ぶ権利を保障し、分かる楽しさを共に感じていくことのできる教員になりたい。そのために、今後も様々なフィールドで学びつつ発信し続け、「聾教育」についての知識や技能、理解を深めていきたい。



高野フミ IFUW 元会長 (1980~1983) を偲んで

2013年12月7日没 享年99歳



日本初の IFUW 会長—高野先生を悼んで 青木 怜子

大学女性協会で高野先生とお会いしたのは、1969年、大磯の日米大学女性協会合同セミナーでした。アメリカ学会を通じ多少存じ上げていたものの、いきなり AAUW 会長の長いスピーチを逐語訳するよう言われたのです。私は入会したてで、スピーチの趣旨も会の活動もわからず、一発勝負の訳でした。

その後、先生は、74年のIFUW京都総会に向け、準備委員長としての手腕を発揮され、総会では、IFUWの第三副会長に選出されました。また、79年に日本で開かれた汎太平洋地域会議の頃には、すでに第一副会長として、Purves 会長を補佐する重責を負っておられました。

翌80年のヴァンクーヴァー総会は、高野先生を会長に推す重要な会議で、中村道子様をはじめ、故中村ミチコ・村井孝子様など、多くの方が熱烈な支援を尽くしました。やがて、万雷の拍手の中、日本初のIFUW会長が誕生したのです。

先生が陣頭指揮されたのは、82年のジュネーブ評議会と83年のグローニンゲン総会ですが、ジュネーブでは、私は CIR として、只一人日本から参加していました。先生は眩いばかりの存在でしたが、ある晩、私と一緒に行ってほしい所があると言われます。行き先は、夜間診療の歯科医。歯が欠け、応急処置を受けられたのです。「夜分、一人では怖いから」と言われたのが忘れられません。

翌年、総会の最中、広報担当で英国生まれの若いオランダ会員が、原稿チェックのため先生を待っていました。終わるなり、顔を赤らめ私にそっと英文原稿を見せるのです。「見て！真っ赤！」。1枚足らずの原稿は一面朱筆で埋まっていた。それでも彼女は、そのことが光栄で、嬉しそうでした。

先生は、英語圏の人が判りにくい説明をすると、もう少しアングロサクソン流英語で、と言われます。爆笑のうち、会議は先生の思い通り纏ってしまうのです。不思議な魅力と、温かさ包容力が、国を越えて広がりました。今も、各国で感謝を込め、先生のご冥福が祈られていることでしょう。

ユーモア大好きの高野フミ先生 房野 桂

高野先生がIFUW会長を務められたのは1980年から1983年までの3年間でした。その次の3年間IFUW会長になられたのがイギリスのヘレン・ダンズモアさんでした。本年1月6日にヘレンから来たメールをご紹介します。

「親愛なるケイ、フミのご逝去の報をありがとう。初めてフミに出会ったのは1956年のパリでのIFUW総会でした。それ以来二人は常に連絡を取り合い、IFUW理事会で協力していました。」

「フミはユーモアのセンス抜群の魅力的な女性でした。真顔で冗談をおっしゃるのですが、眼を見れば眼が踊っているのが分かりました。」

「100歳に到達おできにならなかったことは残念ですが、最近健康がすぐれずにいらしたので、死は彼女にとっておそらく安らぎなのでしょう。」

ヘレンのおっしゃる通り、高野先生は、「ユーモア、冗談大好き人間」でした。私は、津田塾大学で、高野先生から英作文、英文学史、英語劇の指導を受けましたが、特に英作文の指導は厳しく、評に“hopeless”と書かれて、未だに先生を恨んでいる卒業生もいます。先生の英作文で‘A’を取るのには至難の業ですが、私は先生の弱点を捉えてままと‘A’をせしめました。コツはこうです。つまり先生が思わずプツと吹き出したくなるような面白いことを書くことです。先生は、ユーモアや冗談で人の気持ちを和らげるのがお得意であると同時に、人から仕掛けられたユーモアや冗談には弱くいらっしやるのです。後にこのことを先生に申し上げたところ、苦笑いしておられました。



1980年のIFUWヴァンクーヴァー総会の高野フミ先生
左は前任者の Purves IFUW 会長

天国では、先生が大好きなユーモア、特にブラック・ユーモアはあまり聞けないかも知れませんが、どうか安らかにお休みくださいませ。ありがとうございました。

活発になった支部間協働事業・本部委員会事業

静岡支部公開セミナー

「今、外国人は困っている」

—外国人の悩みに耳を傾ける活動を通して感じてきたこと—

多文化共生事業をスタートし6年目となる今回は、神奈川支部との共催となりました。共通の課題もあり、また、地域によって違う問題点もあると、6年目にして新たに覚えてくるがありました。

来場者は一般の男女10名を含め、30名でした。パネリストは横山レイカさん（ブラジル出身、富士市教育委員会外国人児童生徒指導員、富士市国際交流ラウンジ運営協議会会長）、茂木眞佐代さん（磐田市外国人児童学習支援サポーター事務局）、山瀬恵子さん（神奈川支部 元インドシナ難民相談員）の3人です。それぞれの立場からの体験の話は説得力がありました。会場からは、日本語教育の重要性の再認識、外国人の子供の問題状況は親を含めて大きいことを知った、「共生」から「競生」へという山瀬さんの意見が新鮮だった、時間があるし、生きがいが必要とする老人パワーを増やしてその人達に関心をもって関わるのが一つの方法など、多数感想をいただきました。

物事を改善していくためには継続と理解（共感）だと思います。静岡支部ホームページに、多文化共生に特化した欄「多文化共生情報ボックス」を設けました。今後、情報交換を活発に行い、共に多文化共生を理解し、大学女性協会全体として、だれもが住み良い街、日本になっていくことをめざして、力を合わせていくことができれば嬉しいです。

（山下いづみ）



150K にまで達していることが紹介された。しかし、室温で超伝導状態を示す物質の発見が待望されており、現在注目されている様々な超伝導物質について、その研究秘話や、今後の



展望を独自の視点で話された。超伝導技術を応用することによって描ける未来の夢として、リニアモーターカーの普及、損失ゼロでの電力送電などが紹介され、出席者から多くの関心が寄せられた。

（科学研究奨励委員 香取浩子）

人材育成委員会講演会

「大使って何するの？—在外公館の任務と役割」

人材育成委員会は、国際社会に発信できる女性を育てるため、国際会議への参加支援の他、関連の研修会を開いています。11月15日の津田塾大学同窓会会議室での研修会もその一つで、『大使って何するの？—在外公館の任務と役割』と題し、特命全権大使として活躍されたお二人に話を伺いました。

会員でもある広瀬晴子氏は、UNESCOやUNIDO事務局の要職を経て、駐モロッコ王国特命全権大使（2006-2010）を務められましたが、当初は予想外のことに戸惑うばかり、とユーモラスに語られました。

大使としては、日本の立場を護ると同時に、相手国の内情を知り、種々情報を集めて両国友好に尽くしたこと。出先に在る邦人保護に奔走したこと。信頼を築くため、人脈造りに終始したことを挙げられました。

次いで講演された国枝昌樹氏は、元駐シリア・アラブ共和国特命全権大使（2006-2010）で、エジプト、イラク、ヨルダン駐在後、ジュネーブ軍縮代表部公使、駐ベルギー公使、駐ホーチミン市総領事、駐カメルーン大使などを歴任されたベテラン外交官です。著書『シリア・アサド政権の40年史』にも見られる通り、アラブ通の方でもあります。

大使職には、特命全権大使から親善大使まで多々あるものの、長期駐在する大使に求められるのは、「動く、見る、会う、話す」ことで、相手国のトップからあらゆる階層の人々と「交わり、覚えられ、信頼される」ことが肝心。だが、力を尽くし、善意をもって相手国から友好を得なければ、真の外交は展開しないと述べられました。最後に大使の理想像として、元駐仏大使の古垣鐵郎氏を挙げ、彼はド・ゴール大統領と深い信頼関係を築き、最高権力者の懐に入る胆力ある文化人であったと述懐されます。責任ある立場を描くのに、国枝氏もまた臨場感溢れる言葉とユーモアをもって話されました。

続く質疑応答では、普段覗き得ない大使の仕事ぶりや、本省とのやり取りなどが伺え、興味津々でした。大分支部会員が、カメルーンのサッカーチームに対する県民の友好に触れると、国枝氏は、カメルーンにもしっかりと伝わり、「これぞ日本！」との印象を残したのではないかと、と答え、国境を越えて心に残るエピソードが会場を温かく包み、閉会となりました。

（青木怜子）



広瀬晴子会員

国枝昌樹氏

第12回自然科学講演会

「高温超電導の科学と夢」

大阪大学大学院理学研究科教授、大阪大学低温センター長、日本学術会議会員

田島 節子

2013年12月14日（土）お茶の水女子大学にて

【共催】科学研究奨励委員会・東京支部・お茶の水女子大学理学部

田島節子会員は東京大学工学部物理工学科を1977年に卒業後、企業へ就職されたのち、1986年から東京大学工学部、1989年からは国際超電導産業技術研究センターに勤務され、2004年から現職で教鞭をとられている。高温超伝導分野の第一人者として、長年にわたり高温超伝導に関する実験的研究で活躍されている。講演では、転移温度以下で電気抵抗がゼロとなる超伝導体の基礎的な性質についてわかりやすく説明されたのち、現在最高の転移温度を示す銅酸化物高温超伝導体の特徴を、発表時のエピソードを交えながら紹介された。従来の超伝導の仕組みを説明する理論では30K程度が超伝導転移温度の上限と考えられていた。しかし、1986年にそれを超える転移温度を示す銅酸化物高温超伝導体が発見されると、銅酸化物周辺の新物質探索に世界中の研究者が沸き立った。この「高温超伝導フィーバー」により、瞬く間に銅酸化物の超伝導転移温度が100Kを超え、現在では

支部だより

北から～南から

若手会員の登場で活性化

京都支部長 中川 慶子

Q 最近の支部の活動は？

A ずっと引き継いできた年4回の例会と総会、新年会そして交流部会を実施しています。例会の講師に第一線で活躍する若手の会員に登場してもらうことで会も活性化してきました。「アメリカの先住民（インディアン）の歴史と現在」や「中東における女性の社会進出」など非常に興味深い話が聞けました。また、アジアの留学生3名を招いてのシンポジウムやマレーシアからの国際奨学生を新年会に招くなど国際交流の機会も増えています。

Q ご当地自慢は？

A 秋の例会では、紅葉の美しい名所や社寺などを訪ね京都に住む特権を大いに楽しんでいます。交流部会でも映画・鑑賞などを催し会員同士の親睦を深めています。ホームページ（JAUWの支部だより）の充実や年一度の会報の発行などがあります。これは例会に参加できない会員へのメッセージ役を担っています。

Q これから力を入れたいことは？

A 新入会員、特に若い会員を増やすことにつきます。「何をやる会ですか、何をやっている会ですか」の問いに明快に説明できるように持っていきたいと思っていますが…。



黄葉の美しい京都府立植物園の散策

躍動する福岡支部

福岡支部長 和栗 方子

Q 最近の支部の活動は？

A 福岡近郊に住む人なら一度ならず参詣したことのある大宰府天満宮とその近くの光明寺へ敢えてこのメンバーで訪ねてみましょうかということになり、昨年秋の支部恒例の一日ツアーはここへ決まりました。11月24日連休の賑わいの中、大宰府駅に集合し門前町を通過して境内に入りました。宮司夫人自ら境内を丁寧にご説明いただき、歴史上の意味や成り立ち等詳しく知ることができました。別館で元祖梅ヶ枝餅とお茶をご馳走になり、菅原道真に肖って少し賢くなった気分です。紅葉が最高の彩を見せる中晴天に恵まれた楽しい一日でした。体力と興味のある方はその後、国立博物館へ向かいました。次の例会は1月25日新年会です。当支部は県外在住の方が多いのですが遠方からよく出席されます。24年は公開講演会を3回開催しました。講師は支部会員又はそのおつれ合いにお願いしたのですが、いずれも時宜を得た内容のお話で大好評でした。外部から参加された方々にも絶賛していただきました。10月の本部主催のセミナーにも、支部で研究会を開き、それを相良かおさんがまとめて発表することができました。

Q ご当地自慢は？

A 福岡市の人口は150万人を超え、まだ増え続けているようです。目下NHK大河ドラマ、「軍師 黒田官兵衛」で街は湧いています。タクシーの運転手さんも講習を受けて「勉強しとります」と話してくれました。JR博多駅にも3年前に大きな商業ビルが建ち、近郊や九州一円から人が集まり大変賑わっています。こんな活気ある福岡へ皆様どうぞお出かけ下さい。九州一円を走る豪華列車七ツ星号が大人気ようです。

Q これから力を入れたいことは？

A 支部会員は現在26名ですが、少数精鋭と申しますか、さまざまな場面で会員の誰かが良い案を出して方向を示して行く、大変良い雰囲気の中にあります。会員の増強にも更に努力しなければなりません。



2013年4月29日 福岡支部総会の様子



最後に訃報をお伝えします。京都支部が誇る大先輩の高橋千夏様が昨年12月13日に102歳で逝去されました。高橋様は長年にわたって大きく貢献してくださいました。住み慣れた家で一人暮らしを長く続けられ人生を輝かしく全うされました。ご冥福を心からお祈り致します。



白寿を祝う会にて

2014年 新春のつどい

—1月11日 京王プラザホテル—

長崎支部長 梅田 和子

私が「新春のつどい」に出席するようになって、7年目になりました。最初は長崎支部から推薦した社会福祉奨学生の方が採用され出席される、との連絡に私も参加しなければ、と慌てて航空券を購入し上京しました。

その出席した奨学金贈呈式で、受賞された学生さん達の研究姿勢に感銘を受け、仕事を定年退職し気持ちが前向きではなくなりつつあったときでしたので、大いに刺激をもらい、また先輩方の勇気と元気さにも力をもらい、帰崎し元気になった私は、JAUWの総会やセミナーに出席することが楽しみになりました。

今年は同じテーブルにホームズ奨学生の呉莊香さんとその94歳のお祖父さま、91歳のお祖母さまがご一緒でした。働いているお母さまの代わりに彼女を育てたお祖母さまは嬉しくて仕方がないという様子でした。

今年度奨学生には、結婚して子供さんがいる方がお二人、パートナーの協力と子供さんの存在が研究の励みになっている様子が伺えました。

また社会福祉奨学生の3名の方は聴覚障害がある方でした。聴覚障害を持つ学生さんの、障害があっても前へ前へと向かう姿勢に感銘を受けました。

第2部の「今に生きる平家物語—祇園精舎 祇王—」の金子あいさんの語りは、インテリアデザイナーとして空間設計を学び、自分自身を媒体に空間表現したい、との思いが伝わる舞台でした。永田砂知子さんの「波紋音 (はもん)」の演奏は初めて聞く音色でした。金子さんの語りにマッチした音色は魅力的で、舞台から伝わる緊張感、静けさの中にお二人の確かな技術と表現力を感じました。

若い学生さんの新しい技術へのチャレンジ精神に喜びを感じ、地方では見ること(聞くこと)ができない舞台を見て、豊かな気持ちになった新春のつどいでした。



金子あいさん 永田砂知子さん

クリスマスコンサート「詩人の恋を歌う」

—けやきホール—

事業委員会 宮下 好子

11月27日、倉石真氏、伊坪淑子氏によるクリスマスコンサートが、けやきホールで行われた。

伊坪氏の軽やかなタッチのピアノ演奏と倉石氏のテノールの美声がホールに響きわたり、ホールは快い感動に包まれた。「詩人の恋を歌う」のタイトル通り、詩人ハイネによるシューマンの作品を、溢れるばかりの恋心で表現したご夫妻の演奏と歌唱は圧巻であった。

最後に文化交流委員会の招待で来場したベトナム出身の十文字学園大学の留学生2人が、民族衣装を纏って花束をご夫妻に贈呈した。一層の華やぎをコンサートにそえ、また留学生にとっても留学中の晴れやかな楽しい思い出になった、と喜びのコメントをいただいた。

知人の70代男性から、次の様な感想が寄せられた。「テノールの中では、声域が高い印象があり、前半の恋愛進行形の語り掛けの力がとても力強く聴こえた。素敵なご夫妻という印象は、会場の多くの方々と同じである。」

クリスマス前の待降節に、豊かな優しい思いに満たされて会場を後にした、とのご報告もあり、事業委員会としても意義深く心躍る活動となったことを皆様に感謝したいと思う。



アンコールにこたえて

名器と巨匠 究極の出会いのコンサート

—求道会館—

特設委員会委員長 高田 武子

12月6日、ピアノの巨匠ルース・スレンチェンスカ氏とヴァイオリニストの久保陽子氏によるチャリティーコンサートを開催しました。チケットの申込みが殺到し、皆様のご要望にこたえるため、急遽プレコンサートも準備しました。ピアノはクララ・シューマンが愛用したグロトリアン・スタインヴェッグ（岡山市三船文彰氏所有）、ヴァイオリンは1722年製アントニオ・ストラディバリ（台湾・奇美博物館所有一ヨアヒムや、エルマンらが使用）、正に巨匠と名器の出会いの名演奏会に私たちは浴することになりました。

はじめに、久保陽子氏によるバッハのバルティータの演奏はまるで魂を揺さぶられる至極の音色に、切なく胸が張り裂けそうな傷みを覚えました。休憩後、ルース・スレンチェンスカ氏と青木前会長のNY時代の共通の話題で楽しい対談があり、ピアノ演奏となりました。ラフマニノフ、さらにベートーベンのヴァルトシュタインなど、繊細さと力強さ、89歳のピアニストのこれまでのたゆまぬ努力と情熱に圧倒され、会場全体は至福の響きに包まれ、惜しめないスタンディングオベーションの中、終演となりました。会場はいつまでもお二人を讃える温かい雰囲気の流れ、閉会が惜しまれました。

企画と多くのお手間をいただいた三船文彰様と、奇美博物館長・許文龍様、求道会館のご協力に深く感謝申し上げます。(収益はすべて高校生奨学金に寄付されました。)



休憩後の楽しい対談

第16回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式ご案内

第16回賞贈呈式および祝賀パーティーを開催いたしますので、多数ご出席いただきたくご案内申し上げます。

日 時 2014年6月14日(土)
 贈呈式・受賞者講演 13時00分～14時30分
 祝賀パーティー 14時40分～16時30分
 場 所 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
 東京都千代田区九段北4-2-25
 TEL 03-3261-9921
 JR、東京メトロ、都営地下鉄「市ヶ谷駅」より徒歩3分
 会 費 2,500円
 申 込 先 (一社) 大学女性協会事務局
 TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889

初夏のピアノコンサートのお知らせ

「浪漫への誘い」 ピアノ 佐藤千佳
 日 時：2014年6月19日(木) 14時30分 (開演)
 場 所：ルーテル市ヶ谷センター
 チケット：一般 3,000円 学生 1,500円
 初夏の午後のひとときを新進ピアニスト佐藤千佳さんの香り高いピアノの名曲で過ごしませんか。曲目はショパンの珠玉のピアノ曲、ノクターン OP48-1、バラード1番、ほかを予定しております。
【プロフィール】
 桐朋学園大学卒、ドレスデン国立音楽大学大学院及びマイスタークラス修了。第12回ロヴェレ・ドゥオーロ国際音楽コンクール第1位。第21回霧島国際音楽祭にて特別奨励賞及び優秀演奏賞、サントリー賞受賞。全日本ピアノ指導者協会正会員。日本女子大非常勤助手。
 申 込 先 (一社) 大学女性協会事務局
 TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889

HPが新しくなりました

昨年6月にHPのリニューアルに向けての検討委員会が立ち上げられ、本年1月までに9回の委員会が開かれました。HPの目的、掲載内容を見直し、制作は(株)タブコムに依頼、2月17日に新HPに移行しました。見やすく綺麗な画面で、講演会、イベントなどの検索がしやすくなりましたので、どうぞご活用ください。



観劇会予告 事業委員会

5月17日(土) 国立小劇場 文楽
 演 目 未定 二部立て興行の第一部
 演目決定次第お知らせします。
 チケット代 6,500円 締切 3月20日
 7月12日(土) 東京オペラシティ 「七夕の雅楽」 午後5時開演
 演 目 「蘭陵王」「納曽利」
 S席 5,000円
 7月16日(水) 国立能楽堂 午後1時開演
 演 目 狂言「因幡堂」 山本 則孝
 能 「芭蕉」 観世 清和
 正面席 4,900円

理事会から

- ▶ CSW58 (国連婦人の地位委員会) / NGO (3月10日～21日 NY) にJAUWから田中正子元会長、城倉純子理事、参加支援者の石塚浩美 (神奈川支部)、中島亜花莉 (一般応募学生) の4名が参加。報告会を4月5日に本部会議室で行うほか、5月の全国総会で講演の予定。
- ▶ JAUW10年史の発行準備のため、2006年からの編纂がはじまりました。
- ▶ 昨年12月にご逝去なさった京都支部故高橋千夏様のご遺族松比良節子会員 (神奈川支部) より、当協会にご芳志をいただきましたので、感謝をこめてご報告いたします。
- ▶ IFUW 奨学生募集中: IFUW のテーマに合う研究を行う博士論文候補生対象。詳細は JAUW のホームページ、国際協力と IFUW > IFUW ニュースでご覧ください。会員は5月末日までに本部に応募書類を提出のこと。問い合わせは本部事務所にメールで。

新入会員 理事会承認 2013年8月～2014年1月

札幌支部	川本 桂子	神戸支部	水島 道子
仙台支部	関口 仁子	福岡支部	城崎 由紀
東京支部	三浦 まり	福岡支部	田部井世志子
長崎支部	鈴木千鶴子		

一般社団法人 大学女性協会
 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
 電 話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
 http://jauw.org E-mail:jauw@jauw.org
 発行人 阿部 幸子 編集責任者 端本 和子
 発行日 2014年3月3日